

平成16年度試験研究成果書

区分	指導	題名	「ウキヤガラ」水田への進入と雑草化の確認	
[要約] 湿地生多年草「ウキヤガラ」が水田に進入し、雑草化していることを新たに確認した。畦畔での発生が多いところでは、本田の発生も多い傾向がある。 また、水田近傍の土水路での発生も確認され、灌漑水によって塊根が流入し拡大した可能性がある。				
キーワード	水田雑草	ウキヤガラ	新規確認	農産部 水田作研究室

1 背景とねらい

多年草「ウキヤガラ」が水田に進入し雑草化していることが新たに確認された。発生圃場では防除に苦慮しており、今後防除対策を検討する必要があることから、発生実態について調査した。

2 成果の内容

(1) 雑草名：ウキヤガラ（カヤツリグサ科ホタルイ属） *Scirpus yagara* Ohwi

(2) 形態及び発生生態：

池や沼、川辺などの水中に生える多年草で日本全土に分布する。和名は冬になると茎が枯れて水に浮くので、これをヤガラ（矢幹）と見て命名されたと言われる。

根茎は太く横にはって疎に分枝し末端にクワイ形の塊根を形成し、後に黒くなり質はかなり硬い。茎は直立し三角形、高さ80～150cmに達する。葉は茎の下部に多く上部の葉身は扁平で茎より長く、先は細くとがる。基部の葉鞘は長く緑色、時に褐色を帯びる。花は茎の先端に開出した葉状包から花柄を出し散形花序に小穂をつける。

(3) 発生確認場所 松尾村寄木地区（鹿野、立石、北寄木）及び野田地区（山道）

(4) 発生の状況

ア 本田でウキヤガラが発生し雑草化していることを新たに確認した。また、本田発生のある畦畔及び近傍の土水路でも発生が認められた。

ウキヤガラが本田に侵入し、雑草化したとの報告は全国的にもほとんどない。

イ 畦畔での発生量が多いほど、本田での発生が多い傾向にあった。

ウ 水口を起点とし扇状に発生する圃場が多く、水口から本田に塊根が灌漑水とともに流入し繁殖した可能性がある。

3 成果活用上の留意事項

(1) 現在松尾村だけの確認であるが、基盤整備前が沼や川等の湿地であったところ、近傍に同様の地形があるところでは発生の可能性がある。

(2) 類似した雑草にコウキヤガラ（*Scirpus planiculmis* Fr. Schm.）があるが、本県では確認されていない。秋田県等では難防除雑草として扱われている。

(3) 防除対策は未検討であるが、草刈りをこまめに行い畦畔からの本田侵入の機会を少なくすることが必要である。除草剤による防除対策は今後の課題である。

4 成果の活用方法等

(1) 適用地帯又は対象者等 県下全域

(2) 期待する活用効果 ウキヤガラ発生確認の資料とする。

5 当該事項に係る試験研究課題

(807) 水田雑草の効率的防除技術の開発(H14-18) 緊急調査（細目課題該当無し）

6 参考資料・文献

1. 笠原安夫「雑草図説」養賢堂(S43)P401-402

2. 「原色日本植物図鑑草本編(Ⅲ) 単子葉類」保育社(S49)P212

3. 「牧野新日本植物図鑑」北隆館(S38)P765

4. 「多年生雑草コウキヤガラの生態と防除に関する研究」秋田県立大学研究報告(1992)千葉和夫

5. 木根淵旨光, 桜井輔, 高林実「ウキヤガラの生態的特性について」雑草研究第5巻(講演要旨)P6

7 試験成績の概要（具体的なデータ）

本 / m ²		③	⑥
ウキヤガラ	57	40	
シスイ	43	222	
		②	⑤
ウキヤガラ	317	30	
シスイ	87	1133	
		①	④
ウキヤガラ	183	100	
シスイ	40	1189	



図1 ウキヤガラ多発圃場（松尾村寄木地区立石。白く光る部分がウキヤガラ）
（調査圃場は98m×28m。調査地点は長辺方向に25m間隔、短辺方向は畦畔から7mの地点）



a 幼植物 b 花序（散形花序） c 繁殖（根茎と塊根） d 塊根

図2 ウキヤガラの形態

表1 ウキヤガラの発生状況

地区名	発生状況
寄木地区 鹿野	況圃場整備済み（20-30a）。水口から概ね10m範囲に多く発生。 発生密度は20-40本/m ² 。コンクリート水路に整備されているが、畦畔にも多く発生している。畦畔の発生の多いところでは80本/m ² 。
立石	30a整備圃場。今回調査では最も発生が多い。発生量は図1の通り。 3年ほど前水田を購入し作付け。従前より水稻が作付けされていたが、購入した時点では他の草種も含め、シスイ等雑草発生量はかなり多く、ベンタゾン剤を施用してきた。畦畔にはウキヤガラのほかヨシ等の発生も多く本田への進入も見られる。隣接圃場は本田及び畦畔でのウキヤガラ発生は全くない。
北寄木	発生量は10本/m ² で圃場内に散在。ウキヤガラの発生する土水路に接している。
野田地区 山道	水口を中心に扇状に発生。発生が密なところは30～50本/m ² の発生。

（参考）類似草種の比較



出典：保育社「原色日本植物図鑑
草本編〔Ⅲ〕単子葉類」